

地域の誇りを胸に、全力で挑んだ

# 多古高球児たち

全国高等学校野球選手権記念大会の千葉大会が7月11日に開幕しました。今年  
は100回目の記念大会のため170校163チームが東西に分かれ、東千葉大  
会と西千葉大会として実施され、全11会場で熱い戦いが繰り広げられました。東  
千葉大会に出場した多古高校は、7月13日に初戦で成田高校と対戦し、あと一歩  
のところまで追い詰めましたが、7-8で惜敗しました。敗れはしたものの、終  
盤にリードを許す苦しい展開の中で最後まで諦めない生徒の姿や子どもたちを信  
じる保護者の姿、声を枯らしながらも声援を送り続けた多古高応援団、みんなが  
一つになってこの試合に挑みました。

多古 1030000300 7  
成田 202030001x 8  
(多古) 佐藤、池上、荒井―鍋木  
(成田) 仲沢、荒張―田宮



8回表、走者一掃の3点  
タイムリーを放つ岡野



8回裏、チームのピンチを救う  
好プレーをみせた澤田



ピンチの場面、キャプテン富山が  
チームをまとめる



試合終了後、お互いの健闘を  
称え合うナインの姿

## インタビュー



多古高野球部  
キャプテン  
富山 佑斗さん

この試合、初回に先制できましたがその裏にすぐに2点取られ、3回に逆転するもまたすぐに追いつかれてしまいました。6回のグラウンド整備前の一番点数を取られてはいけなかったところを取られてしまい、その後なかなか点数が取れなかった中、8回のチャンスに岡野が打ってくれました。いけいけムードの中でもう一本出して勝ち越せばというところまで追いつめていたので、正直なところ悔しいです。この2年半を振り返ってみると、本当にあつという間でした。去年の夏の大会で負けたその日から新チームの活動が始まって、きつかった夏場の練習

を乗り越えて迎えた秋季大会は県大会の初戦で敗退。春季大会も冬場みっちり練習してきましたが結果を出すことができませんでした。迎えた最後の夏は、高校3年間の集大成だから楽しんでやろうという気持ちで、どんな時でも笑顔で臨むように心がけていました。ただ、今日の試合、迫屋先生から、ベンチから積極的に声を出して盛り上げてくれという話があり、キャプテンとしてその期待に応えられなかったことが一番悔しいです。これで高校野球も最後になってしまいました。周りの方々にたくさん支えていただきました。これまで一緒に頑張ってきたメンバーには、こんなキャプテンについてきてくれて、ありがとうございます。毎週のようにあったにも関わらず、協力してくれたお父さん、お母さんに本当に感謝しています。ありがとうございました。

## 緑の下の力持ち

多古高野球部が奮闘する中で、応援スタンドからチームを支える多古高生の姿がありました。部員19名ながらに迫力ある演奏で選手にエールを送り続けた吹奏楽部を代表して部長の加瀬さんに、そして、多古高応援団で声援を送りながらも周りの生徒に気を配り、裏方の仕事に徹していた篠塚さんに話を伺いました。

### 多古高吹奏楽部

部長 加瀬拓也さん(3年生)

試合結果は残念でしたが、応援して見てみんなの気持ちの一つになりました。特に、試合の中で点数を取れば盛り上がりが出て、応援している時に良いプレーが出たりするとそこにやりがいを感じました。この大会に臨むまで、部活の大半を野球応援の練習に費やしてきました。野球部の生徒たちからのリクエスト。野球部を集めるところからだったので、本番に向けて1カ月くらい前から動き出し、野球部が練習試合をしているバックネット裏で応援練習をしたこともありました。今回、多古高も全校応援ということで、学校全体が一丸となって応援する機会はなかなか味わえることではないの

で、貴重な経験をさせてもらった野球部のみんなに感謝したいです。



### 多古高応援団

篠塚雪乃さん(2年生)

応援団の一員として参加し、次に応援歌の何を歌うかを生徒たちに伝える役で、曲の題名が書いてあるカードをみんなに見せるのが役割でした。基本的にはそれだけだったのですが、私の近くにチアリーダーの生徒たちがいて、とても暑そうだったので、飲み物や冷たいタオル



チアリーダーに飲み物を届ける篠塚さん



などを持って行ったりしました。野球部が頑張っている中で、みんなも暑いのに応援している、熱中症になってしまったら大変だったので未然に防げるように、みんなと最後まで全力で応援できるように、という気持ちで臨んでいました。野球部は一番大きい部活で、多古高の誇りでもあり自慢できる存在です。

## スタンドを埋め尽くした大応援団

この日、多古高を応援しようとして平日にもかかわらず球場には大勢の観客が駆け付け、会場を圧倒させました。地域で多古高を応援しよう、そんな無言のエールとでもいえるような、また、どこか見守ってもらえているような安心感を与えてくれた観客の姿は、多古高球児たちにとって大きな存在となっていたことでしょう。全国的な少子化の影響からか、多古高の生徒数も減少している現状の中で、この地域で頑張る多古高の生徒たちは私たちにとって大切な宝です。おらからも皆さんと一緒に見守り、声援を送り続けていきたいです。

頑張れ、多古高校。

